

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 — — —)

事業所番号	0673000550		
法人名	社会福祉法人朝日ぶなの木会		
事業所名	グループホームかたくり荘		
所在地	山形県鶴岡市熊出字東村157-2		
自己評価作成日	平成 31年 1月 21日	開設年月日	平成 16年 2月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人ひとりがその人らしく穏やかに生活出来るように取り組んでいます。出来る事を見つけて、出来る事で自信が持てるように、また役割を持って生活出来るように支援しています。その季節の食材や風習を取り入れた献立の提供をしています。畑作りをする事で昔の事を思い出しながら、職員に畑作りを教えることで自信にも繋がっています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町4丁目3番10号		
訪問調査日	平成31年2月20日	評価結果決定日	平成 31年 3月 7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設されて14年、法人理念やグループホーム理念に基づき、利用者一人を考えながら、安定した支援が行われている。特に、一人ひとりのケース記録などは詳細であり、更に過去の生活歴などを詳しく知り、「自信が持てるよう、役割を持って生活できるよう」支援したいと頑張っている。また、毎月の利用者の生活の様子や介護計画の実施状況・評価を記載した「月まとめ」を家族へ送付するとともに、家族の行事への参画の呼びかけなど、利用者や家族の絆を大切にしながら、共に利用者を支えていく関係を築いている。さらには、職員の育成も評価される。職員一人ひとりの目標の申告と、それを踏まえた管理者との面談による自己啓発促進、研修機会の設定等を大切にしている。法人・事業所の職員育成への姿勢が、意見交換の印象として残る。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己 部	外 部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念は毎月の月例会で唱和し、日々目的意識をもって実践に努めている。グループホームの理念は常に見える場所に掲示したり、勤務表に記載し、実践に努めている。	法人理念を基にグループホーム理念と行動指針を定めている。月例会で法人理念を唱和するとともに、事業所理念を玄関等目に触れるところに掲示し、また、勤務表に印刷している。職員はこれを踏まえて、「利用者の希望や価値観を大切に、したいことを出来るよう、得意なことを活かせるよう」支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園への訪問や受け入れ、中学生の職場体験の受け入れ、近隣の寺院からご詠歌のボランティア協力など様々な年代の地域の方と交流している。	事業所敷地には法人の各種施設が集まり、地区の福祉ゾーンのようになっている。日頃から、保育園の「七夕交流会」に訪問したり、保育園を招いたり、中学生の職場体験を受け入れたりしている。御詠歌・ソバ打ち・笹巻つくりの指導やお茶たてボランティアの訪問もある。防災訓練での協力関係も出来るなど、日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域住民参加の合同防災訓練時には認知症の症状や入居者の状況について話しさせてもらい、理解を求めている。また、日頃お世話になっている地域の方々を昼食会に招待し、ホームでの入居者の様子や接し方等知ってもらえる機会となっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回会議を開催。事業報告とひやりハット報告をしている。そこで出された意見や改善点などは事業所へ持ち帰り、サービス向上に努めている。	2か月に1回、市職員、地区代表、民生委員、家族代表と職員で運営推進会議を開催している。会議では、利用者や運営状況、行事、ヒヤリハット等について報告し、自由な意見交換を行っている。その際、転倒防止、薬の管理等等について様々な意見を頂いており、それをサービスの向上に活かしている		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議のメンバーとして出席して頂き、情報の共有に努めている。疑問点があればその都度助言して頂ける関係性が出来ている。また、認定調査についての連絡を取り、関係を築くようにしている。</p>	<p>市職員からは毎回運営推進会議に出席して意見もいただくとともに、月に1回、市の相談員の訪問を受けて希望等を訊いてもらっている。一方、市の事業所連絡会のグループホーム部会に参加し、日頃から情報や意見交換を行って、市との協力関係を築いている。</p>		
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>今年度より身体拘束等適正化委員会を3ヶ月に1回開催。身体拘束等の適正化の為の研修を行い、職員全体に周知している。行っている。入居者の所在確認は職員間で声かけながら行っている。玄関の戸にオルゴールをつけ、無断外出の予防に努めている。</p>	<p>これまでも法人を中心に拘束しないケアについて学んできたが、今年からは、3か月に1回、「身体拘束適正化委員会」を開催し、研修も行き、職員間で周知を図り、対応を確認し合っている。特に外に出たがる利用者への対応、夜間の怪我の防止等への対応については、職員間で話し合い、申し送りを綿密に行っており、ケース記録に詳細に記載され、不適切な対応の無いよう組織的に努力している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>8月グループホーム連絡協議会庄内ブロック会での研修会参加。その内容をグループホーム研修会にて職員に伝達し、防止に努めている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>実際に制度を利用していた入居者がいたが、現在は退居された。今年度は研修実施していない。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時や保険制度改正時、介護度変更の際は内容を家族に説明しその都度署名捺印をして頂いている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族にアンケートを実施し、サービスの向上に努めている。また、介護相談員の毎月の訪問により第3者へ要望が伝えられている。家族との面談やサービス担当者会議などで直接意見や要望を聞き反映するようにしている。	利用者からは日頃の会話、家族からは面会時に意見や要望を訊いている。毎月、生活状況や診察結果を記載した「月まとめ」を家族に送り、意識の共有を図っている。行事にも多くの家族の協力が得られ、職員とのコミュニケーションが図られ、意見等表しやすい良好な関係となっている。また、年1回、家族のアンケートを行い、それを踏まえて行事を組み直したり、職員の技能向上等に反映している。介護相談員の毎月の訪問は、利用者が直接外部の者に意見を表す機会となっている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回職員にアンケート実施し、意見や次年度の取り組みなどの提案を反映できるようにしている。また、職員会議や日々の業務中に意見を求め、出来るだけ意見をくみ取れるようにしている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度の取り組みにて各自向上心アップに繋げている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	課内研修会や事業所内研修会を実施。また、外部研修にも参加し、その後出張報告を行い職員に伝達し、資質の向上に努めている。新人職員には現場指導員をつけ、状況を把握しながら指導している。また、個人目標を掲げ、目標達成に向けて取り組んでいる。	職員の目標管理を通じて技能や意欲の向上を促すとともに、法人や事業所で、年間計画を基に感染症や認知症などの研修を行っている。また、力量や意欲を斟酌して社協・地区GH連絡協議会等の外部研修・交換実習などの外部研修に派遣し、受講後の伝達研修も実施している。新人職員には、先輩職員が指導員となり、基本を具体的に指導している。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会庄内ブロック会開催の研修会には積極的に参加。また交換研修も行い、学んだことを伝達研修し、自施設に活かせるようにしている。	事業所は、県・地区グループホーム連絡協議会や市介護事業所連絡会議主催の研修会などに管理者や職員を派遣し、同業者の職員との人的なネットの形成を促し、サービス向上に繋げるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居開始前に本人と面談を行っている。想いをくみ取りながら不安なく入居出来るようにしている。本人の意向も確認し、計画書にも取り入れている。入居後も不安な事はないか、要望はないか話しをする時間を多く持つように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居開始前に家族と面談し、生活状況や健康状態、認知症状、要望など聞き取っている。家族の意向も確認し計画書に取り入れている。入居後いつでも相談できる体制である事伝えている。家族と一緒に本人の生活を支えて行ける関係作りに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出勤・退勤時には入居者一人ひとりに挨拶を大切にしている。1対1で会話する時間をもち一緒にいる時間を大事にしている。家事仕事など一緒に行い、同じ時間を共有している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	都度状況報告している。面会時ゆっくり話しが出来るように配慮している。日々の生活の様子を文章にて毎月発送し報告している。年2回の居室掃除や衣類の入替え等を家族と一緒にする事で、つながりを感じてもらっている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族にはホームで行われる誕生会等の行事参加の呼掛けや面会の呼掛けを行っている。また、外食や墓参り、ドリーム活動等家族と一緒に外出出来る機会を持てるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入って一緒に会話を楽しむ事で、交流出来るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族が困らないように、必要に応じて終了後のサービス利用について支援や助言をしている。同法人の施設に入所した際は様子伺いに行ったり声掛けしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話や家族からの情報を基に問いかけし、訴えや希望を伺っている。希望をかなえられるように家族からの協力も得ながら外出や外泊、ドライブを行っている。	利用に当たって暮らし方や希望を聞き取ったものに、一対一の会話で訊いたことや気づきを大切に、本人らしい生活ができるよう支援している。家族については、毎月「月まとめ」を送付して情報を提供するとともに、面談の際に丁寧に訊くように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面接で家族から生活歴、生活環境等の聞き取り、また担当ケアマネージャーよりこれまでのサービス利用状況の聞き取りを行い状況の把握に努めている。入居後は更に会話の中から、生活歴など把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケース記録の様式を見直し、1日の過ごし方がわかるようにしている。また、特記があった場合は申し送りし、職員間で共有出来るようにしている。日々のかかわりの中で家事や作業をお手伝いして頂き、その入居者にあった事を工夫しながら1日の過ごし方を考えて取り組んでいる。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者がケース担当者から情報収集し、3ヶ月に1回モニタリングを行い、介護計画の評価を行っている。状況に合わせた介護計画書の見直しも行っている。年1回は家族を含めたサービス担当者会議を行い家族と情報共有している。	毎月利用者の担当者が計画の実施状況や評価を記載した「月まとめ」を作成し、3か月に1回モニタリングを行い、サービス担当者会議で、本人の希望を逃さないように意識しながら介護計画を見直している。年に1回は会議に家族も出席してもらい、共通意識の中で、本人らしい計画に仕上げている。「検討記録の要点」が詳しく、中身の濃い意見交換の様子が読み取れる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個人のケース記録を記入し、バイタル測定はパソコンに入力し体調変化が一目でわかるような取組を行っている。3ヶ月に1回ケアチェックを行い、職員会議にて情報共有を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご詠歌、茶道、踊り等地域に指導してくれる方がいて、定期的に訪問してくれる。また地元のスーパーへ食材の買い出しに職員と一緒に出掛けたりしている。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の定期回診にて適切な医療を受けられるように配慮している(協力医による定期回診)。外部受診は家族の協力を頂きながら対応している。体調変化時はその都度家族へ連絡し、早期対応、受診に努めている。	基本的には、本人や家族の希望する医師の診察を家族等の付添いで受診するが、殆んど協力医療機関の医師を受診している。協力医は定期的に往診も行っている。医師には「診察時情報」を提供し、結果は記録への書き込みと電話等で、情報の共有化を図っている。また、「月まとめ」に報告等を記載し、家族との情報の統一に役立っている。	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタル測定を行っている。異常や状態変化があった場合は隣接する施設看護師に報告、相談し、指示対応を受ける事が出来るようになっている。夕方は施設看護師に日中の状況報告を行っている。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先病院に入院前の身体状況を情報提供している。入院後は状況確認に病院訪問したり、病院関係者と電話でやり取りする等情報共有に努めている。また知り得た情報は協力医師にその都度報告している。		
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に「重度化した場合及び終末ケアについて」を书面で説明し、同意を頂いている。また、重度化及び終末期の意向調査を実施している。その後も、サービス担当者会議にて意向を再確認している。家族、協力医、施設看護師と連携を図り、状況にあったケアが出来るようにしている。	重度化した場合等の対応については、利用開始時に、家族等に詳しく「指針」を説明し、意向も確認し、また、サービス担当者会議に家族が出席した際にも確認している。身体に変化があった際は、家族、医師、看護師、職員で話し合い、対応を確認している。看取りの基本についての学び合いも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル整備している。机上の内部研修を行い、緊急時の対応が出来るようにしている。消防職員による心肺蘇生法研修は年1回必ず実施している。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間防災訓練を計画し実施している。地震、火災想定訓練、また水害想定避難訓練では実際隣接の2階の建物に避難している。今年度は総合防災訓練で水害想定避難訓練を実施。地域住民からの協力を頂いた。停電に備えて、土鍋での炊き出し訓練も行っている。	毎年、敷地全施設が協力して防災訓練を、消防署の参加を得て実施している。今年度は、地域住民の協力を得て、水害の避難訓練を行った。事業所ではその際、居室から隣接建物の二階に階段を利用して避難した。その他、毎月、火災等の避難訓練、夜間訓練、炊き出し訓練等様々な訓練を行っている。食糧や水の備蓄を法人全体行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	虐待、プライバシー保護の研修を行っている。声掛けや接遇はミーティングや都度職員間で声掛けし、改善するようにしている。	今年度は、内部研修として、虐待やプライバシー保護の研修を実施した。日頃から不適切な対応の無いように、気付いた事案を、忘れないように、その日のうちに話し合って改善するように努めている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各担当者を中心にひとり一人の会話の時間を持つ事を意識し、本人が自己決定できるよう働きかけている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせ、起床を拒む時は時間をずらし食事を提供したり、就寝時も消灯は本人に任せるケースもある。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自宅で使用していたスキンケアは継続するようにし、その人らしいオシャレが継続出来るようにしている。祭りや敬老会、クリスマス会等の行事の際は薄化粧し、昔に戻ったかのようにはしゃいで喜んでいます。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もらった野菜や山菜等の下処理を一緒にしながら、どんな調理をしたらいいか聞いている。季節や行事に合った献立、自分で選べるバイキング食、手作りそば打ち会食、出前なども取り入れている。食事は職員も同じものを一緒に食べている。食事前のおしぼりの準備、食後は片付け、食器拭き等手伝ってもらっている。	三食とも、職員作成献立に基づき、スーパーで購入した食材に頂き物(リストも整理)を加え、手作りし、家庭的で暖かい料理を食している。利用者も、材料下処理や配膳や食後の片付けや食器拭きなどを行っている。職員も一緒に食べ、楽しそうである。メニューは多彩である。加えて、手作りソバ、バイキングなど行事食や出前などもあり、食の楽しみに配慮されている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回体重測定を実施し、体重管理を行っている。水分不足、食事量低下の入居者に関してはチェック表に記録し、高カロリー食を取り入れながら献立の工夫もしている。咀嚼困難な入居者に対しては安全を確保する為、隣接する施設より介護食提供してもらっている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを声掛け実施。困難な方へは支援を行っている。毎日歯ブラシとコップの洗浄を行い、週1回は消毒を行っている。年1回歯科検診を実施し口腔内の状態を把握している。治療が必要な入居者に関しては、随時往診治療を行っている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を記入し、ひとり一人の排泄パターンや排泄状況を把握している。それに合わせてトイレ誘導を行う事で失禁の減少に努めている。	一人ひとりの排泄チェック表を基に、排泄パターンを確認し合いながら、「一人で、トイレで」を基本に呼びかけや誘導を行っている。日中は、できるだけおむつを使用しないで生活できるよう支援している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操や荘内歩行等の運動を取り入れ、水分強化に努めている。バランスの良い食事を心掛け、毎日飲むヨーグルトを提供し排便を促している。排泄チェック表にて排便状況を把握し個々に応じた対応をしている			
44	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の状況に合わせて入浴日を設定し、体調やタイミングを見ながら入浴を楽しめるように工夫している。1人ずつゆっくりと入浴してもらいプライバシーに配慮している。湯温やシャワー浴等、好みに合わせて入浴を実施している。	本人の希望や身体状況を踏まえて、午前又は午後に入浴してもらっている。困難な利用者には、ゆっくりできるよう二人介護で対応している。気分に合わせて、シャワー浴にしたり、入浴剤を利用したり、一人ひとりの好みについて話し合い、工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅で使用していた寝具を持って来てもらい、自宅に近い環境づくりを行っている(ベッドでなく布団を敷く等)。個々の好みに合わせて室温調整を行っている。日中の関わりを多く持ち、個別に話しを聞く事で不穏なく入眠出来るように努めている		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の内服サンプルを準備し薬セット時に参照している。一時的な追加薬も随時日付等を記入し忘れないように留意している。個人の健康ファイルを作成し現病や内服薬の把握に努め、記録を行い、体調変化時に早期に対応出来るように努めている		
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き・床掃き・洗濯物たたみ等出来る事を見つけて、手伝うことへの喜びや達成感が得られるように努めている。パズル作成等その人に合った創作活動や外出等を実施している。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内の散歩や買い物への同行など随時行っている。日頃の話しの中から意向を聞き取り、ドリーム活動での外出や季節のドライブを実施している。家族と連携し、墓参り等の外出も実施している。	広い敷地内を散歩したり、畑作業をしたり、週2回のスーパーへの買い物に同行したり、出来るだけ外気に触れられるよう配慮している。また、「ドリーム活動」で、花見やもみじ狩り、つつじ公園散策など「夢」を叶える機会を作り、日常的に外出できるように支援している。家族は協力的で、個別に、折々に、墓参りなども楽しむことが出来ている。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理困難で紛失の恐れがあるため、金庫に預り小遣い帳に記入し管理している。毎月家族に小遣い帳写しを郵送しトラブル回避に努め、家族来荘時には閲覧してもらい承認印を頂いている。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をかけ会話出来るように職員が間に入っている。年賀状や手紙のやり取りが出来るように都度支援している。携帯電話を持参している入居者もいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除や適切な室温・湿度管理を行い快適に過ごせるように努めている。入居者が作成したパズルや創作活動の作品を展示したり、季節の飾り付けを心掛け、室内でも季節を感じたり楽しめるように工夫している。整理整頓に努め、危険な物は置かないようにしている。	理念等が貼られた玄関を入ると、職員や利用者の創作作品が多く飾られ、中に入ると、利用者は、共用のソファやテーブルで、寝ころびながらテレビを観たり、昼食の下ごしらえを手伝ったりしている。調理の匂いも漂っている。壁面は行事の写真が貼付され、静かなながらも明るい空間となっている。温度なども調節され、清掃にも配慮されている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室・談話室・居間を使い分け、気分や体調に合わせてながら好きな所へ移動して過ごしている。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物を自宅から持って来て頂いている。創作活動の作品を掲示したり、家族の写真や好きな絵を貼り、居心地よく過ごせるよう工夫している。家族が季節の装飾をしてくれる方もいる。	利用者の居室には、馴染みの衣装ケース、椅子などが持ち込まれている。壁面には、利用者や家族の写真が貼られ、創作作品も飾られている。家族と一緒に清掃活動などもあり、清掃もなされ、快適そうな生活空間となっている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室を解り易く大きく表示している。施設内は手すりを設置して安全に移動出来るように配慮している。必要に応じてベッドにL字バーを設置し自身での起き上がりをサポートしている。衣装ケースに表示テープを貼り、自身で出し入れしやすいように工夫している。			